

文部科学省プッシュ型派遣事業 in 藤崎町教育委員会

9月25日（水）、藤崎町教育委員会は、CSマイスターの森万喜子氏をお招きし、「こどもの学びと育ちを、ともに支える～こどもが主語の学校と温かい地域づくり～」をテーマに研修会を開催しました。羽賀教育長をはじめ、教育委員会職員が参加し、教育委員会が実施すべき具体的な準備や事務処理等について学びました。

講義では、「学校は、こどもにとって極めてローカルで多様性と出会う場所であり、学びの質を高めていくことが究極のグローバルにつながる。」「こどもたちが安心して学び育っていくためには、地域と学校が連携・協働し、学校のビジョンや家庭の願い、地域の思いを話し合うことが重要である。」ことなどを、具体的な実践事例をご紹介いただきながら学ぶことができました。

また、コミュニティ・スクール導入にあたっては、「地域の特性を活かし、実状に応じた学校と保護者、地域の理解を得た後の事業開始が望ましい。全国では形骸化している所が多いのが現状である。」というお話をいただきました。参加者からは、「導入・運用に向けて準備する事項は？」など、具体的な質問が次々とあがり、充実した研修会となりました。



文部科学省プッシュ型派遣事業 in 風間浦村教育委員会

10月16日（水）、風間浦村教育委員会は、CSマイスターの森万喜子氏をお招きし、「地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくり～コミュニティ・スクールとは何か～」をテーマに研修会を開催しました。風間浦村の村上教育長をはじめ、教育委員会職員、風間浦小学校長、また、佐井村の曾根教育長と教育委員会職員も出席しました。

前半の講義では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の目的や役割を学び、後半は、グループに分かれ熟議を体験しました。熟議では、「どんなこどもに育てほしいか。」「そのためにどんなことができるか。」について話し合い、「風間浦（下北）の輝く大人たちの姿を見せる。」「遠慮が無いからこそストレスをためる子が少ない。」などの意見が出されました。一方、講師からは、「学校だけで変えることは難しいが、学校運営協議会で協議し、地域の人と出会い、色々なツールを使い、まちづくりへとつなぐコミュニティ・スクールは、こどもの学びの質を高める仕組みである」というお話をいただきました。

※プッシュ型派遣事業とは、文部科学省がコミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の推進のために、各地の先進的な事例や関係法令などを踏まえた説明等を、必要とする未設置の地域に対してCSマイスターを派遣し講話や助言等を行う事業です。当課から該当する各市町村教育委員会にご案内し、今年度も実施しています。



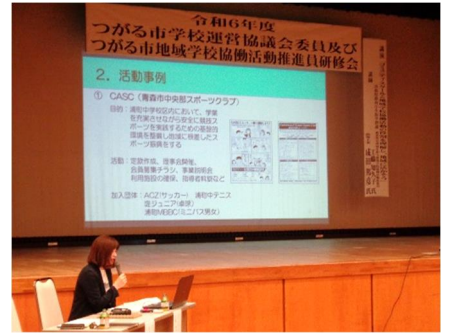
令和6年度 つがる市学校運営協議会委員及び つがる市地域学校協働活動推進員研修会

9月26日（木）、つがる市教育委員会は、「学校運営協議会委員及び地域学校協働活動推進員研修会」を、つがる市生涯学習交流センター「松の館」にて開催し、42名が参加しました。県生涯学習課統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員の工藤が、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の役割を理解し地域に活かそう」をテーマに、講義と演習を行いました。

講義では、学校運営協議会の役割とコミュニティ・スクールについて、地域学校協働活動推進員の役割、地域での協力を得るためのポイントを具体的に説明しました。

次に、演習の熟議では学校毎に分かれ、各校の学校目標とめざす子どもの姿を確認した後、「私が知っている地域のいいところ（場所・人・歴史・文化など）」を書き出し、それを活用した課題解決の活動について話し合いました。今回の熟議後の模造紙は、各校で開催される次回の学校運営協議会へ情報提供として持ち帰っていただきました。

※つがる市は、令和3年度から「つがる市型コミュニティ・スクール」と「つがる市型地域学校協働活動」を市内すべての学校（7小学校、5中学校）に導入しました。令和4年度からは「グローバル科」「つがる市型郷土学」「キャリア教育」を3本柱にした「つがる市型小中一貫教育」も実施しています。



こどもの未来、地域の未来

神奈川県鎌倉市立手広中学校（生徒数286名）を訪問してきました。鎌倉市は、中学校区を1つのブロックとし、令和4年度から段階的に「鎌倉版コミュニティ・スクール」を立ち上げてきました。令和7年度には鎌倉市内全小中校でスタートする予定です。鎌倉市のコミュニティ・スクールは、「小中一貫教育によるブロックごとの9年間を見通した教育課程を編成し、地域と協働して学校運営の改善をする」という理念の実現をめざしています。

令和4年度から導入している手広中学校は、毎年、「防災」を通して地域の皆さんと連携を図るための活動を実施しています。今回の防災学習では、学校運営協議会委員である地域団体会長からの提案を受け、学校運営協議会で協議し、避難所運営訓練を実施しました。当日は3年生98名、教職員、学校運営協議会委員、PTA、地域住人等が参加しました。避難所のルールづくりや班別ワーク、南海トラフ地震を想定した避難所運営を、中学校に設置してある防災備品を活用し、リアルに体験しました。学校運営協議会委員からは、「子どもたちと一緒にベットを作る訓練ができるのがうれしい。」、生徒からは、「避難所に地域の人がきたら、今日学んだ事を活かしたい。」などの感想がありました。10月下旬に3年間の防災学習のまとめ発表会を実施するため、3年生は自分が担当した班の写真を撮りながら作業を確認していました。

また、他校では、コピーライターやクリエイティブディレクターを招いて、広告の基礎や効果的に啓発するポスターの作り方を学び、「防災教育」をテーマとしたプロ顔負けの作品を完成させていました。地域50カ所に掲示し、地域の方から講評をいただき、効果分析を実施するなど、それぞれ主体的な学びにつなげています。



生徒たちの受付・誘導の様子